令和3年度（2021年度） シラバス

教科	家庭	科目	家庭基礎	1学年	必修	2単位
科目の目標	生活に関する実践的、体験的な活動を通して、生活の中の課題と、その解決の方策を考える。また、ライフステージの各段階における課題等を学び、自分らしい人生をつくり、共生社会を実現する意欲と能力を育成することを目指す。					
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)		副教材	なし		
準備物	教科書・紙ファイル・ルーズリーフ(A4)・裁縫セット・エプロン・三角巾					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%	40%	20%
A	生涯を見通した生活設計を行うために必要な知識や技能を十分に身につけている。	自身の人生を主体的に十分に考え、また持続可能な社会の形成のための家庭生活を十分に考案し、表現している。	人の一生や生活に関するさまざまな課題や解決策について、積極的に調べ、発表することが十分にできる。
評点	34～40	34～40	17～20
B	生涯を見通した生活設計を行うために必要な知識や技能を身につけている。	自身の人生を主体的に考え、また持続可能な社会の形成のための家庭生活を考案し、表現している。	人の一生や生活に関するさまざまな課題や解決策について、積極的に調べ、発表することができる。
評点	18～32	18～32	9～16
C	生涯を見通した生活設計を行うために必要な知識や技能が不十分である。	自身の人生を主体的に考え、また持続可能な社会の形成のための家庭生活を考案し、表現することが不十分である。	人の一生や生活に関するさまざまな課題や解決策について、積極的に調べ、発表することが不十分である。
評点	～16	～16	～8
評価方法	小テスト 実技テスト 提出物	提出物 表現活動	自由レポート ミニプレゼンテーション

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容		
4	生活の自立のために	衣生活		
5			食生活	
6				住生活
7		消費者経済		
8				
9				人の一生と家族
10		子育てを学ぶ		
11			高齢期の生活、生活を支える仕組み	
12				1年間のまとめと振り返り
1				
2				
3				

3 学習方法（どうやって学ぶか）

(1) **知識・技能**・・・栄養に関する小テスト、基礎縫い実技テスト等を実施する。しかし、生活に関するさまざまな知識や技能は、高校生活の一時期のみで習得できるものでは到底ない。授業以外にも生活における各場面で、それらを体験し、習得につとめること。

(2) **思考・判断・表現**・・・基本的に各単元ごとに課題の提出を求める。例えば、調理実習のレシピ作成、一人暮らしの住居計画、子どもの遊びに関するレポート等。課題は期限を守って確実に提出すること。また、「人の一生と家族」の領域では、グループで『家族ドラマ』のシナリオを作り、それを演じる。それぞれの課題に積極的に取り組むこと。授業のさまざまな場面でディスカッションやその発表を行うので、積極的に参加すること。

(3) **主体的に取り組む態度**・・・衣食住の領域では、各領域の授業の最後に、希望者による「ミニプレゼンテーション」を行う。また、「人の一生」にかかわる領域では、授業の内容をさらに深めるレポートの自由提出を行う。これらに取り組む生徒については、その主体的な態度を評価する。